

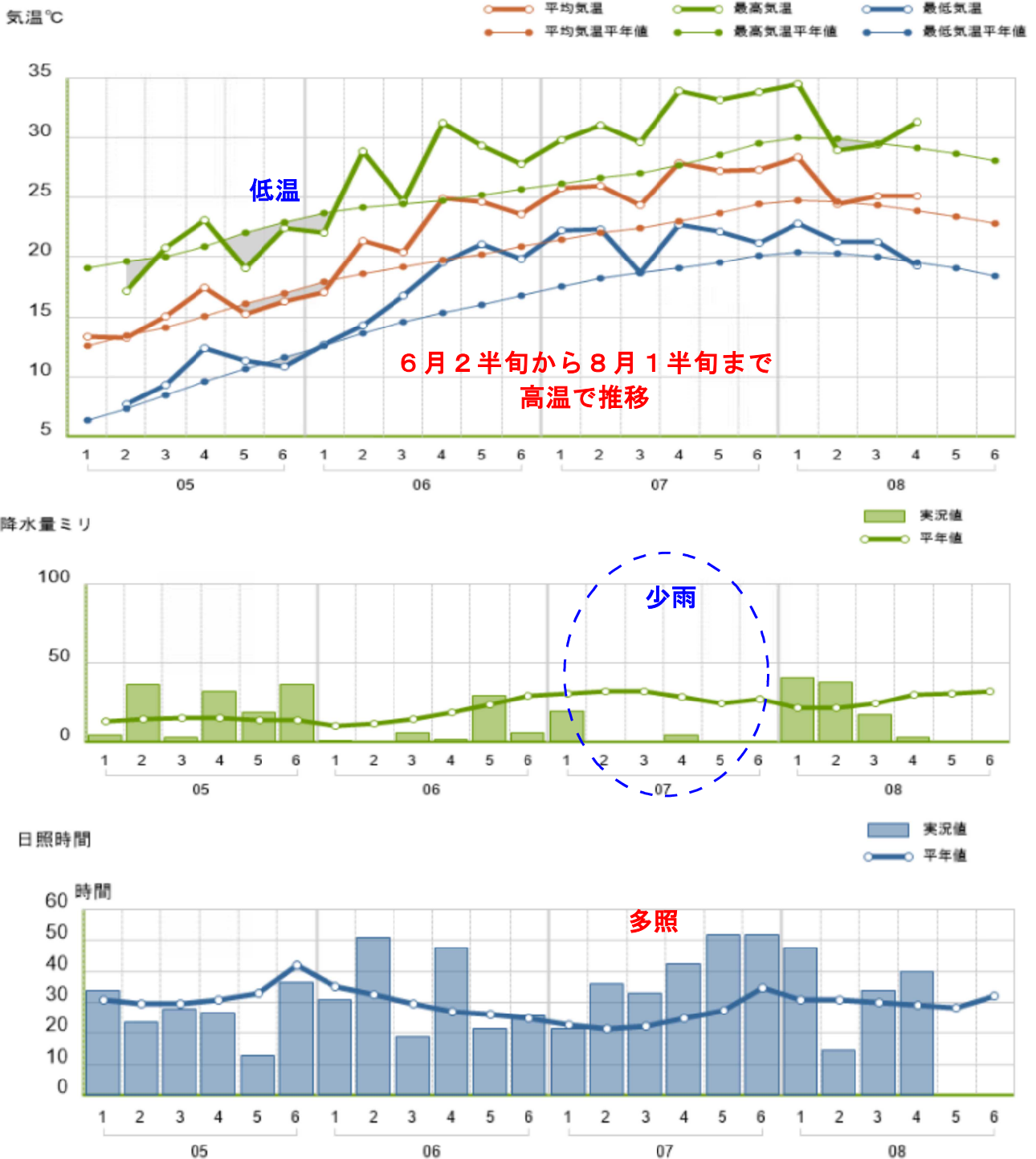
雄勝地域の

稲作だより

令和7年8月20日
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

刈り取り適期はやや早まる見通し。籾の黄化程度を確認！
玄米の充実を高める水管理を徹底しましょう！

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：5月1半旬～8月4半旬）



【生育状況】

管内の出穂期は、生育が早めに推移したことから、平年より1日早い8月1日でした。

本年は出穂後、昨年と同様に高温多照で推移しており、稲体の消耗や、茎葉から穂へのデンプン転流阻害による登熟歩合の低下や、未熟粒の発生が懸念されます。

8月18日現在の定点調査ほ（あきたこまち8カ所）では、穂数は404本/m²（平年比91%）と少ないものの、一穂着粒数が78.2粒（同比107%）と多く、m²当たり着粒数は31.4千粒（同比97%）とやや少なくなっています。また、止め葉の葉色は35.8（同比102%）とやや濃くなっています。

○草丈（cm）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25
本年（2025）	23.2	41.8	61.3	73.0	85.2
平年	25.1	36.6	51.9	64.6	76.2
平年比（%）	92	114	118	113	112
前年（2024）	26.6	40.8	56.1	70.5	83.1
前年比（%）	87	102	109	104	103

※平年は過去10年間の平均値

○茎数・穂数（本/m²）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2025）	116	409	469	450	430	404
平年	119	377	506	509	483	445
平年比（%）	97	109	93	88	89	91
前年（2024）	104	416	527	458	438	437
前年比（%）	112	98	89	98	98	92

※平年は過去10年間の平均値

○葉数（葉）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2025）	5.4	8.7	10.1	11.5	12.7	13.0
平年	6.0	8.8	10.2	11.3	12.4	12.9
平年差（葉）	-0.6	-0.1	-0.1	0.2	0.3	0.1
前年（2024）	6.3	9.5	10.7	12.0	13.0	13.2
前年差（葉）	-0.9	-0.8	-0.6	-0.5	-0.3	-0.2

※平年は過去10年間の平均値

○葉緑素計値（SPAD）

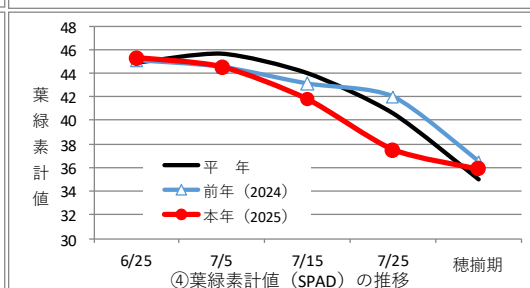
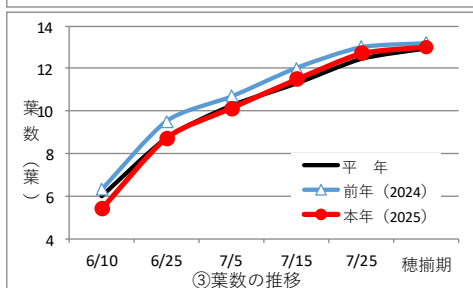
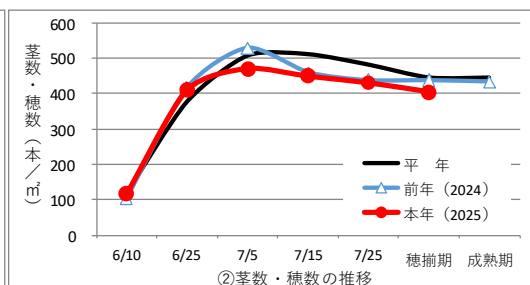
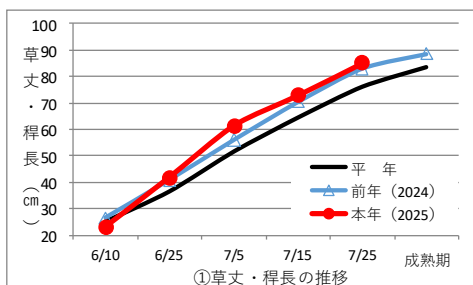
	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2025）	45.3	44.5	41.8	37.5	35.8
平年	44.8	45.7	43.9	40.6	34.9
平年比（%）	101	97	95	92	102
前年（2024）	45.1	44.5	43.1	42.0	36.5
前年比（%）	100	100	97	89	98

※平年は過去10年間の平均値

○穂揃期の着粒数（粒）

	一穂当たり	m ² 当たり
本年（2025）	78.2	31,448
平年	73.4	32,568
平年比（%）	107	97
前年（2024）	77.2	33,724
前年比（%）	101	93

※平年は過去10年間の平均値



【当面の主要な技術対策】

ほ場をよく観察し、水管理の徹底を図るとともに、畦畔除草、秋作業用機械施設の点検等を実施し、品質の維持・向上に努めましょう。

1 斑点米カメムシ類対策

防除対策情報 第10号（令和7年8月7日、病虫害防除所発表）によると、水田内雑草が発生しているほ場などでは、斑点米カメムシ類の発生量が多いと予想されています。

出穂期10日後頃の1回目防除に加えて、出穂期24日後頃の2回目防除を畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布しましょう。

- (1) 2回目防除の茎葉散布剤は、キラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（収穫7日前まで）とします。セジロウンカが多発しているほ場では、同時防除が可能なエクシード剤を選択しましょう。今年は収穫時期が早まる予想のため、薬剤の使用時期（収穫前日数）には特に注意しましょう。
- (2) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者と連携をとり、ミツバチなどへの危害防止を徹底しましょう。
- (3) 2回目防除後の草刈りは、収穫2週間前以降に行いましょう。

2 穂いもち対策

葉いもち多発ほ場や上位葉（止葉及び次葉）に発病が認められるほ場では、穂いもちの発生拡大を防ぐため、防除を徹底しましょう。

最終防除時期は出穂後25日頃までとし、穂揃期の防除に加えて、傾穂期にもラブサイド剤による防除を実施しましょう。なお、ラブサイド剤の本田での使用回数は3回以内です。

3 登熟向上を図る水管理

- 8月2半旬は雨天により、高温はやや落ち着きましたが、今後1か月は高温の見通しとなっているため、稲体の活力を維持し、登熟の向上を図るための水管理を徹底しましょう。
- 出穂後30日間は間断かん水とし、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。
- 気温が30℃以上になる場合は、かん水して地温を下げ、水分供給と地温低下に努めます。また、フェーン現象など乾燥した風が強い日は湛水状態を保ち、蒸散による稲体の消耗を軽減します。
- 落水時期は出穂後30日頃を目安とし、イネの登熟度やほ場の作業性などを考慮して決めます。落水が早すぎると登熟が妨げられるので、今年は特に注意します。生育が旺盛な場合は、米粒の肥大が遅くまで行われるので、落水を早めすぎないように注意してください。

4 刈り取り予測

刈り取り適期はほ場条件等で異なるため、以下の判定法を組み合わせる総合的に判断しますが、最終的には**各ほ場の籾の黄化程度を必ず確認**し、黄化程度が90%（高温年の場合は85%）に達した時点を刈り取りの目安とします。

表 出穂後の積算気温及び積算日照時間による刈り取り適期予測（アメダス湯沢）

出穂期	積算気温到達日					積算日照時間到達日 200h
	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃	
7月28日	9月5日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日	8月24日
7月30日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月17日	8月29日
8月1日	9月10日 (1日早い)	9月12日 (2日早い)	9月15日 (1日早い)	9月17日 (2日早い)	9月20日 (1日早い)	9月2日 (3日早い)
8月3日	9月13日	9月15日	9月18日	9月21日	9月23日	9月7日
8月6日	9月17日	9月20日	9月22日	9月25日	9月28日	9月10日
8月9日	9月21日	9月24日	9月26日	9月29日	10月2日	9月12日

※ 8月1日が管内の出穂期（管内の50%が出穂期を迎えたと判断された日）

※ 8月20日以降のデータは平年値を使用。

※（ ）内は平年値との比較。

【出穂後の日数】

出穂後の日数が早生品種（あきたこまち等）で45日前後、中晩生種（めんこいな、ゆめおぼこ等）で50日頃が目安となります。

【出穂後の積算気温による判定】

出穂後の日平均気温の積算値が早生品種で950～1,050℃、中晩生品種で1,050～1,150℃を刈り取り適期の目安とします。

早生品種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を越えると、立毛中でも胴割米が急増するため、刈り遅れにならないよう注意しましょう。

【籾の黄化程度】

葉や穂首が緑色であっても、**籾の黄化程度が90%以上（ただし、高温年の場合は85%以上）**あれば、刈取適期と判断します。

【枝梗の黄化程度】

穂の主軸について上から**5番目の枝梗まで黄化**した頃が目安となります。

枝梗の黄化程度は年次変動が大きいので、注意が必要です。

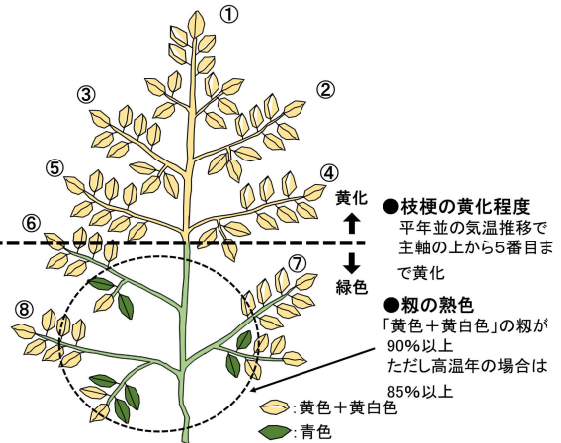


図 籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈取適期の判断(模式図)

【向こう1か月の天候の見通し（8月16日～9月15日）】：仙台管区気象台、8月14日発表
期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

- 1週目（8/16～8/22）：気温は、高い確率が80%です。
- 2週目（8/23～8/29）：気温は、高い確率が50%です。
- 3～4週目（8/30～9/12）：気温は、高い確率が70%です。



農作業事故に注意しましょう！

秋田県では、9月10日から10月20日までを「秋の農作業安全運動期間」とし、農作業中の事故防止を呼びかけています。

秋の農繁期は、コンバイン等での収穫作業が中心となることから、特に農作業機械による事故に注意しましょう。

STOP! 稲わら焼き

秋田県では、稲わら焼きは県条例で原則禁止されています。
特に、周囲に影響が出やすい10月1日から11月10日までの間は全面的に禁止されています。



↑詳しくはこちら
(県HP「美の国あきたネット」)